京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

https ://www.kyoto-catholic.net/

2024年　司教年頭書簡
わたしのシノダリティを創ろうⅡ
シノドスがめざす〈道〉と〈宿〉の宣教を受けて

第7回　共に歩む～歩み方をイエスに倣って創ってゆきたい

今年の年頭書簡は、私たちをイエスに倣う方向へ導いてくれる。書簡中、「4．シノドス的社会のモデルはイエス」より、私のシノダリティを創ろうと考えさせられたことがある。

「エルサレムからエリコに下る道で強盗に襲われ血だらけになった旅人を、祭司やレビ人は宗教的な汚れを避けるために、その旅人に近づくこともせず、見捨てていった」とある。私たちは福音書のそのくだりを読むといつも、彼らのようでなく「よきサマリア人」にならなくては！　と思う。しかし、少し考えてみると、「宗教的な汚れを避けるために」ということは、彼らにとっては避けることが役割上大切な義務であり、務めであったのだ。彼らは正しいことをした！　悪いことはしていない！　彼らは自分の務めをよく理解し、わきまえた立派な祭司である…。でも、「何か」を私の内なる真理は感じている。日々の生活の中で、度々ある体験である。心は満たされず、私の内なる真理は問い続ける。「あなたは幸せか」と。そんな時、ふと、私たちのイエスだったらどうする？　と問うてみたくなる。彼ならその大切な役割を務めることができなくなっても、人から非難され、尊厳も踏みにじられ、地に倒されても、「今」傷ついている人の傍に行く…自分の全てを置いて。現に、「あの男は気が変になった（マルコ3・21）」とか、「彼は汚れた霊に取りつかれている（同30）」と人々は言ったとある。そうしなければ「今」傷ついている人＝人が避けて通る人＝見向きもされない人と共に歩むことはできない。教皇様が私たちに呼びかけられる「出向いて行きなさい」とは、こういうことかもしれない。

現代社会の「今」に目を向け、内なる真理の声に耳を傾けるなら、神は必ず出会い＝「道」を用意される。神が用意される出会いは、イエスの眼差しを通してくる。イエスはいつも、「かえりみられない人」「疎外されている人」「苦しんでいる人」をじっと見つめている。私たちも、サマリア人のようにはできなくても、イエスと共にありたいと思う。じっと見つめるまなざしを持って。

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校　梅澤　良子

教皇謁見 2024.5.1
聖母の小さな学校という「宿」

大塚司教年頭書簡は
こちらから

8
2024

2024年　小教区役員研修会　6 月15日 オンライン開催

～「兄弟である」わたしたちが「兄弟となる」ためのシノドス的教会（ともに歩む教会）～

参加役員約60名　司牧担当者 5 名

シノドスの歩みを続ける私たちは、シノドス的教会がめざす宣教を模索しています。今回の研修会では、教皇フランシスコの回勅「兄弟の皆さん」の翻訳者であり、昨年10月の シノドス第１会期に議長代理として参加された西村桃子さん（セルヴィ•エヴァンジェリー宣教会／写真）を講師にお招きし、シノドスの理解を深める機会としました。以下講話の要旨です。

「すべての人に、どうすればわたしたちはより『ともに歩む（シノドス的)』教会になることができるのかを聴いて欲しい」との教皇フランシスコの呼びかけのもと、「ともに歩む教会のため―交わり、参加、宣教」をテーマに行われた今回のシノドスは、枢機卿と司教だけで行われてきたそれまでのシノドスと異なり、多くの女性が参加し、参加者みなが兄弟として丸テーブルを囲み、司祭、奉献生活者、信徒にも発言権、投票権が与えられた初めてのシノドスでした。会議ではすべての討議要綱が「霊における会話※」で話し合われました。これはシノドス的手法と言われ、グループ全員に平等に発言時間が与えられ、祈りのうちにお互いの話を聴き合い、聖霊の思いは何かをグループで識別する方法であり、少数の反対意見も大切にされます。「どのようなプロセスで結論に至ったかが大切」と教皇が言われるように、教会で大切な事柄を決定するときも少数の人で決めてしまうのでなく、皆の意見を聞き、皆で決める。そうすることで参加した人の共同責任、積極性も違ってきます。この手法を教会の様々な現場で取り入れることで、少しずつ「ともに歩む教会」になっていくのではないでしょうか。

すべての人は神さまの子どもです。すでに兄弟であるわたしたちは、『兄弟である』人々のところへ出向いて行ってともに歩む選択をすることで兄弟となっていくことが「ともに歩む教会（シノドス的教会）の道のり」なのだと思います。（司教年頭書簡もご参照ください。）

※「霊における会話」カトリック中央協議会ＨＰのシノドスページに実践方法が紹介されています。

文責：福音宣教企画室

青年のための黙想会　テーマ「黙想入門」　6 月 8 日

小立花神父の指導で行われ、４名の青年が参加しました。会場はヌヴェール愛徳修道会本部修道院で、元陸軍第16師団司令部跡です。かつて“戦争”のために建てられた建物は、現在“祈り”のために使われています。

講話は、「祈りとは？」から始まり、「黙想」「観想」「念祷」について、目的、方法、種類、効果などを学びました。そして、講話の後、実際に「黙想」「観想」「念祷」を聖堂で各個人が静かに体験しました。また、ミサにはヌヴェール会のシスターたちも参加してくださり、黙想で味わったその日の福音をミサで再度味わい、“聖母のみ心”の記念日にふさわしいミサになりました。最後に参加者全員で分かち合いをしながら、ティータイムで楽しい時間を過ごしました。

「黙想の効果とは、心の平安、自己理解の深化、信仰の強化、日常生活でのストレス軽減など」と今回学びましたが、まさにそれらを体験した恵みの一日でした。

信仰教育委員会

こんにちは　ブルース神父さん

ブルース・アール・クイ・メディナ神父

三重県南部ブロック担当司祭
フィリピン宣教会
生年：1983年
叙階：2018年

私は1983年9月21日にフィリピンの小さな島、マスバティで生まれました。セントジョセフ教会で洗礼を受け、カトリック学校で教育を受けました。幼い頃から教会で祭壇奉仕者として奉仕し、教会のカリスマ運動のメンバーでもありました。自由な時間には、友達と一緒にギターを弾いたりバレーボールをしたりしました。高校での勉強を終えた後、私は、捨てられた子どもや高齢者の世話をする宣教師のグループに入りました。

2001年に、宣教師としてアフリカのウガンダに行き、無料の薬を提供し、貧しい人々の健康を世話する診療所で働きました。また、老人ホームセンターで宣教師の介護者として働き、そこにいる高齢者や病気の人々の世話をしていました。ウガンダの健康クリニックと老人ホームで介護者として働きながら、ウガンダの神学校の所長も務めていました。

ウガンダでの5年間の活動の後、私はラテンアメリカの新しいミッション地、カリブ海の一部であるジャマイカに送られました。私に与えられた仕事は、ＨＩＶ感染、またはエイズを患った人々の治療と世話をするミッション、病院とクリニックで働くことであり、また捨てられた子どもやストリートチルドレンの世話をすることでした。ジャマイカで4年間過ごした後、私の心の中で主が私に宣教会の神父になるように召し出しを受けていると感じ、フィリピンに戻りました。

2009年に私はフィリピン宣教会のタガイタイ市の神学校に入学しました。8年の学びの後、2018年4月7日に司祭に叙階され、すぐにマンダルヨン市の聖母被昇天教会の助任司祭に任命されました。1年後、神学生の指導者として任命され、3年間、司祭になる若者を訓練しました。

そして現在、私は京都教区の三重県南部ブロックで働いています。

春プロジェクト 報告　　5月18日～19日

今回の春プロは西院教会をお借りして開催しました。

今回は1泊2日だったので、時間を気にすることなくスタッフと参加してくださった青年の方々との交流をすることができました。レクリエーションではことわざカルタやワードバスケットといった室内でも楽しむことができるものを使い、スタッフと参加者とのアイスブレイクを行いました。その後、皆で夕食の買い出しに近くのスーパーマーケットまで行き、協力しながら調理や準備をし、美味しくできたパスタをいただきました。夕飯の片付けをしたあとソ神父様から三位一体について国民的に有名なキャラクターたちを使い、わかりやすく説明をしていただきました。夜の交流会では、運営委員会の主な活動や今回のような宿泊するものや1日企画のようなイベントについて、楽しく話しながら紹介しました。

2日目には、朝食をとった後に西院教会の小学生に混ざってシスターポーリンのお話を聞き、その後ミサに参加しました。ミサのお知らせの中で、教会の皆様に青年活動について紹介させていただきました。ミサ後は記念写真を撮り、使わせていただいたホールや和室の掃除を、来た時よりも綺麗にする思いで清掃しました。最後になりましたが、参加者の皆様、場所を快く貸してくださった西院教会の皆様、誠にありがとうございました。

運営委員／長浜教会　菊川ガブリエル

青年センターあんてな

お　知　ら　せ

司　　教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

教　　区

正義と平和協議会

第17回 戦争と平和写真展
「沖縄・フクシマ・東アジア」

日時：８月10日㊏ 14:00〜20:00
　　11日㊐ 7:40〜15:30
場所：河原町教会ヴィリオンホール
◇映画上映「悲しみの星条旗」と講演
エィミ・ツジモトさん「悲しみの星条旗」企画統括
日時：８月10日㊏ 14:00
問合せ：正義と平和協議会　075-223-3340
seiheikyo@kyoto.catholic.jp

信仰教育委員会

教会学校研修会「今、教会学校に求めること」

講師：大塚喜直司教
日時：８月31日㊏ 10:30〜15:30(受付10:00)
場所：河原町カトリック会館大ホール
要申込
問合せ：信仰教育委員会
shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

広報委員会

教区時報10月号の原稿締切日は８月26日㊊です。
honbu@kyoto.catholic.jp

皆さまのまわりに**点訳版「京都教区時報」**が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。
無料でお送りします。
Tel・Fax/072-722-0271

諸　団　体

京都キリシタン研究会

都の南蛮寺跡記念ミサ

日時：８月25日㊐ 14:00〜16:30
会場：ウィングス京都（京都市男女共同参画センター）２階シアタールーム
京都市中京区東洞院通六角下る
司式：米田彰男神父（ドミニコ修道会）
プログラム
14:00 ミサ
15:00 研究発表・ミヤコの南蛮寺について
16:15〜17:00 ミニ巡礼（希望者）
要申込（定員30名）
申込・問合せ：090-2381-4630 古澤吉次

京都カトリック混声合唱団

８月４日㊐ 14:00 聖歌練習
８月24日㊏ 17:30 練習後、ミサ奉仕
場　所：河原町教会聖堂
問合せ：075-951-4283 則武 隆

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）
８月のテーマ「生き抜く」

ＫＢＳ京都	㊊〜㊎	朝５:55
	㊏	朝５:15
ラジオ関西	㊊〜㊎	朝５:00
	㊐	朝６:05
毎日放送	㊊〜㊎	朝５:45
	㊏	朝４:55

アーカイブスとしてハヤット神父とシスター渡辺のお話の放送もあります。
＊仮事務所住所
〒602-0934 京都市上京区一条殿町502-1
カトリック西陣教会青年会館内

『見よ、それはきわめてよかった―総合的な（インテグラル）エコロジーへの招き』

日本カトリック司教団・著　　定価880円

教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ―ともに暮らす家を大切に』に学び、神、他者、自然、そして自分自身との、調和ある関係を求めつつ生きていくよう呼びかけるとともに、「観る」「識別する」「行動する」という三段階を通じて、エコロジーについての理解を促し、実践へと招く。日本カトリック司教団から、すべての人へと向けられたメッセージ。